別紙

１　活　動　名　　岩国市行政視察　岩国錦帯橋空港の活性化について（岩国市）

２　調査の目的

⑴ 本市における課題

まつもと空港は搭乗率や地形・施設等の関係から、県目標である便数増及び国際化のハードルが高い現状にある。

⑵ 調査の必要性

他空港において、搭乗率向上の施策と、増便・国際化に向けた現状と課題の整理をすることで、まつもと空港の今後の可能性を研究する必要がある。

⑶ 調査項目

岩国錦帯橋空港の活性化について

３　調査地選定理由

⑴ 岩国市

搭乗率向上の為、本市と同じく、利用促進団体による取り組みがあった。また、米軍基地との共用空港として開港した歴史から、航空機騒音や事件事故等のデメリット部分に係る安全安心対策に取り組んでいる。

４　調査結果

⑴　実施日　　平成 29 年６月 27 日

⑵　出席者　　７名　　青木豊子，上條温，草間錦也，川久保文良，今井ゆうすけ，青木　崇，芝山　稔

⑶ 成果・所感等

①　岩国錦帯橋空港の概要

滑走路　延長 2,440m×60m　一本

特　徴　米軍（海兵隊）・海上自衛隊及び民間空港の共用使用

②　利用促進事業

ア　羽田線

羽田線は平成 28 年 3 月、1 日 4 往復から 5 往復に増便。ビジネス利用が 42.8%。首都圏方面の企業に対し、初便が早い岩国空港の利便性についてプロモーションを実施し搭乗率の向上を図っている。

イ　沖縄線

沖縄線は平成 28 年 3 月に 1 日 1 便新たに就航した。観光目的が 62.2%。パンフレットやチラシ等に岩国錦帯橋空港のＰＲ広告を掲載し利用促進を図っている。

ウ 岩国市及び沖縄県において文化・芸術・スポーツ・市民活動等の交流を行う団体（５人以上）に対して、一人当たり最大 10,000 円の旅行費用を助成する。

エ　岩国空港は東の広島空港、西の山口宇部空港、南の松山空港、北の萩・岩見空港の 4 空港に囲まれた位置にある。観光客が岩国空港から入り(IN)、他の 4 空港から帰る(OUT)、あるいはその逆ルートを創出可能な環境にありルート

の形成が求められている。

③　利用促進組織

岩国錦帯橋空港支援協議会は主として観光宣伝（誘客）やイベント等でのＰＲに特化した事業を実施。市は500万円を負担している。

岩国錦帯橋空港利用促進協議会は山口県と連携し、主にテレビ・ラジオ・新聞・インターネット等の広告媒体を使用したＰＲを実施。

負担金は岩国市・山口県各々1,000万円。

④　基地との交流

岩国錦帯橋空港は昭和24年米軍基地との共用空港として開港した歴史を持つ。従来から国の安全保障政策を尊重し、基地の安定的な運用に協力してきており「基地との共存」を岩国市総合計画に明記した。航空機騒音や事件事故等のデメリット部分に係る安全安心対策についても、市民の不安を払拭するために、日米交流コンサート、錦帯橋祭り等への参加、基地内グランドで開催されるサッカー交流などさまざまなレベル・分野において基地との交流が行われている。

⑤　所感

岩国錦帯橋空港は米軍、海上自衛隊及び民間との共用空港で、民間空港の松本空港とは空港の性格が大きく異なる。岩国錦帯橋空港の路線は羽田線と沖縄線の2路線と決して多くはないが、ドル箱である羽田線を持つのは大きな強みだ。東京と一定以上離れた位置に所在する空港にとって、短時間で上京できる羽田線は、松本空港にはない圧倒的な切り札であり特別な路線であると言える。

利用促進を図る組織は松本空港と同様、岩国市の組織山口県との共同組織の二種類がそれぞれ活動している。これら組織の活動内容はイベントを通じた宣伝とメディアを通してのＰＲ及び利用促進を図るための旅行費用の助成であった。この点は松本空港の利用促進団体も同じであった。

一方で松本空港との大きな違いは、岩国錦帯橋空港の周辺に位置する広島空港、山口宇部空港、松山空港、萩・岩見空港の4空港に囲まれた位置にあって、独自性を発揮しようと苦悶する姿であった。その点松本空港は県内唯一の空港であり近隣空港も少ないという立地的な優位性があるので、この優位性を生かしていかなければならないと感じた。

５　政務活動費

⑴　使途項目　　調査旅費

⑵　支出額　　467,340円(日当9,000円、宿泊費29,600円、交通費39,290円)×６人

―以　上―

※今井議員は政務活動費不使用